

【第88回新制作展】五十嵐画伯の入選作品鑑賞会のご報告

日 時：2025 年(令和 7 年) 9 月 20 日(土) 11:00～

場 所：国立新美術館

参加者：五十嵐健治画伯、猪狩恒男君、小川浩君、栗原輝進君、上面豊君、添田稔君、

高萩良郎君、藁谷友治君、高木佑一（記）

9 月 20 日（土）、6 月初旬からの 100 日以上猛暑の連続にうんざりしていましたが、前日からやっと暑さが収まり、やや湿度は高いものの快適な芸術鑑賞日和。

11 時に国立新美術館正面入り口に集合、総勢 9 名、さっそく画伯の作品へ直行。

200 号の大作、作品の題が「The nest in town」、ラベルに五十嵐画伯の新制作展の資格「協友」（「会員」目前の資格）の文字がありました。

素人の私にも例年の作品と何か違う感じがしましたが、画伯から「今回は思い切って色を変えてみた」との説明があり納得。

蜂とハチの巣をはっきりと都会と自然、それに人物が今までになくクローズアップされていて、緑、赤、紺、グレー（語彙不足でごめんなさい）が鮮やかでした。

人と蜂にビルが入り込みバランスが崩れていく不安な状態というコメントもありました。

画伯自らが女性二人（画伯のファン？）を連れてこられて、2 台のカメラで同時記念撮影。

その後 3 階から 2 階、途中で何度もソファに腰を下ろしながら、何が描いてあるのか全く分からないけどどこかいい感じのもの、まるで写真のように、今にも絵から飛び出てくるのではないかと思うものまで、全く絵を理解できない私も、ゆっくり会場を回り大作の数々を堪能させていただきました。

1 階の彫刻展示を鑑賞した後、千代田線で湯島の祝賀会場の飛鳥に向かいました。

いつもお世話になっている飛鳥に到着、13時半近かったので、他のお客様は少なく、貸し切りに近い状態、あらかじめの添田君の連絡のおかげですぐに乾杯、なんとノンアルコールビールを所望された参加者が3人もいてびっくり。

それでも会話ははずみ、五十嵐画伯から、作品の制作のスタートはお盆、皿、コップ、箸などを並べた状態からそれぞれに色を決めて、構図を練り上げていくとの制作過程の秘話が紹介されました。

話題は、いわき FC の活躍、株価の好調さと参加者所有の株の処置、世界陸上、昨年同様男特有の下半身の病気、夜中の目覚めとトイレ、足腰の衰え、健康法など多岐にわたりました。

飛鳥のママさんのいつものご厚意で、時間をはるかにオーバーして、参加者の健康と五十嵐画伯の一層の活躍、来年の入選を祈りながら散会となりました。